

国内研修レポート

私は2月2日から2月9日まで春休みという長期休暇を利用して四国に研修に行ってきた。研修の内容は地域おこしについて学ぶというものである。また私は今まで、法政大学の卒業生が地域おこし協力隊として活動している、北海道の厚沢部町、岡山県的美作町にある上山集落を訪ね、地域おこしについて学んできた。今回の研修は今まで見てきた2つの地域おこしとの比較をするという事を最重要の目的として行ったとともに、法政大学の卒業生といった繋がりのない地域へ自らアポイントメントなどを積極的に行うことや、スケジュール管理などを自分たちの力で行うことも目的としていた。また、今回は臨床心理学科の1年生とともに行くということで、地域おこしについて興味を持ってくれた後輩に地域おこしはどのようなものであるか体感してもらうことを最重要の目的とは違う付属の目的として地域おこしの研修を行った。今回、四国という非常に広い範囲を1週間で見て回ると考えたため、事前学習としていくつかの地域を調べることで、今までの地域系の講義のレジュメを見返すことで、行ってみたい地域をピックアップした。そこででてきた地域は、香川県松山市の駅前にある商店街、同じく香川県の小豆島、徳島県の神山町、葉っぱビジネスで有名な上勝町、自殺率の低い町として本も出版されている海陽町、愛媛県の伊予市、高知県の四万十市、土佐市であった。今回このような地域を回ったが、今回のレポートでは香川県の松山市にある商店街と、愛媛県伊予市の地域おこし協力隊に紹介され急遽訪ねさせていただいた愛媛県松野市について取り上げる。

まず香川県松山市にある商店街であるが、これは1年生の時の図司教授の地域問題入門の講義の時に取り上げられた場所である。松山駅から徒歩10分で行ける商店街は私が見てもすごいなと感じるものであった。広大な敷地に並んだ店舗は多く、その商店街のみで衣食が揃い、また、その商店街の2階部分は住居もあり、商店街に店を構える人々はその商店街のみで衣食住が揃うのではないかと感じた。最初に見たときは、時間が夕方より前であったため、そこまで人がいなく、また見ていたところも商店街の端であったので、そこまで多くの人々が利用しているといった感想は持てなかったのだが、夕方になり改めて訪れるとかなり多くの人でにぎわっており、かなりの人数が利用しているのだなと実感した。この商店街は前はかなり寂れた商店街であったと授業で聞いていた。そのため企業誘致をするとともに、その商店街の区画整理をして、その商店街で店を構える人はその商店街で衣食住が揃うようにし、病院なども商店街に建て、生活の不自由さをなくす努力をしたと聞いた。実際見てみても、病院などが多いなと感じた。また、いわゆるチェーン店などの東京などの都心でも見かけるようなお店とともに、個人経営で昔から店を構えているようなものが混ざり合っていた。現在では寂れた商店街という

イメージはなく、人であふれている商店街へと変わっていた。駅前にこのように人の集まる施設があるとその地域に人が訪れるのであろうなと感じた。松山駅の周りには松山城といった歴史的な建造物や、駅から少し離れたところにはボウリング場といった若者向けの娯楽施設などがあり、商店街に行くついでにそのような施設へ行く、そのような施設に行くとともに商店街へ行くといった効果が期待されるのではないかと感じた。

次に愛媛県の松野市である。ここは本来調べていなかったところであり、行く予定が出来たのは松野町を訪れた前日のことであった。上にも記したとおり、愛媛県伊予市の地域おこし協力隊の方から紹介いただいた。その紹介してくださった協力隊の方は愛媛県の協力隊では知らない人はいない、四国でも有名な協力隊の方であると後に聞いて、アポイントメントを取ってくださったことにとっても感謝している。その方からもインタビュー形式でお話を伺い、それが終わった後に「愛媛県で他にこの地域は訪れた方がいい、といった場所はあるか。」と伺った時に松野町を紹介された。「松野には面白い人がいて、すごい活動をしている。」と聞いたため、予定を変更し松野町を訪ねた。また、伊予市の協力隊の方が松野町の協力隊にアポイントメントを取ってくださったため、取材の許可をスムーズにとることが出来た。愛媛県はいわゆる平成の大合併と呼ばれるものにより、70あった市町村が20までに減少した。その時に合併をしなかった市町村が2つあるが、そのうちの1つが松野町である。そのため松野町の人口は少なく、また高齢者の割合もかなり高い地域である。また松野町はその84%が森林と自然豊かな町でもある。そんな松野町で私たちは2つの地域おこしの政策について学んだ。1つは観光誘致として、松野町にある滑床溪谷という観光資源の活用による観光客の誘致である。キャンプ場の設置や、ガイドの育成、SNSを用いた写真、動画での宣伝を地域おこし協力隊が行い、観光客を増加しようと努力している。また、英語での滑床溪谷のホームページ作成なども行い、外国人観光客の誘致も行い、これは一定の成果を上げていると言っていた。また滑床溪谷は愛媛県であるが、高知県との県境に位置しており、高知県、愛媛県の観光業界と協力し、四国西南部という地域としてその一帯を観光できるような旅行プランなども考えていると言っていた。滑床溪谷は森の奥深くに位置しているため、交通手段が難しいといった問題もあるが、パワースポットといった注目のしかたがあるなと感じた。

次にもう1つであるが、それは桃の栽培である。これは松野町の名産品を作るとともに、地域おこし協力隊の定住の役目を果たしている政策である。松野町の地域おこし協力隊になると桃の木が渡される。その木はその協力隊のものとなり、その木からとれた桃は全て一括で老舗の和菓子店が買い取っており、その収入は協力隊のものとなる。しかし協力隊の期間は3年しかなく、桃栗三年柿八年といったことわざがあるように、桃が実をつけるまでは長い時間がかかる。よって、協力隊はその木の栽培をするとともに、桃を育てるための畑を作る。それによって、松野町の耕作放棄地は少なくなるといった両者にメリットのあるものとなる。さらにその協力隊が松野町に定住すれば松野町も人

口維持や働き手の確保につながる、といった効果がある。しかしまだまだ人が足りないのが現状であり、害獣や手のついていない耕作放棄地といった問題がまだあると言っていた。

今回の研修を通して私はインターネット、SNSを使った広告の力というのが地域おこしには必須ではないかと感じた。今まで行った北海道や岡山県の地域おこし協力隊のところは、SNSでの広告を多くの人が見ることによって、観光客が増加したり、企業誘致に成功したりしている。現在のインターネット社会において、そのような宣伝は大きな力を持つといえる。今回短い時間ではあったが、四国の様々な地域を回り、多くの魅力ある資源があるなと感じた。それは食べ物であったり、自然であったりする。その資源をうまく宣伝することが必要であるなと感じた。また今回はさまざまな人に助けられた研修であった。急なアポイントメントを受けてくれた方々などこの研修で得たつながりを大切にしていきたいと考える。